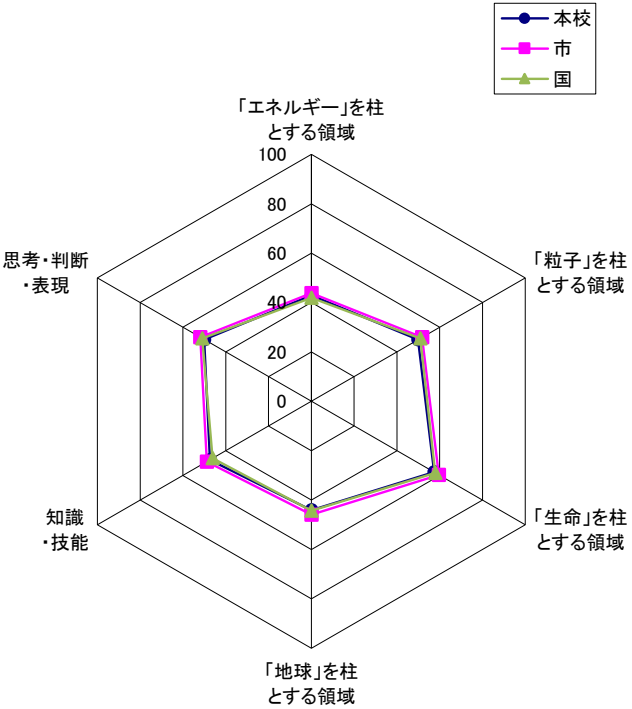


宇都宮市立豊郷中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	42.9	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	49.9	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	57.4	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	44.1	45.9	44.3
観点	知識・技能	47.4	48.8	46.1
	思考・判断・表現	50.1	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は全国平均を1.0ポイント上回った。 ○観点別の知識技能を問う項目では、全国平均を1.3ポイント上回った。 ○記述式の問題で考察の妥当性を高めるための問題では1.8ポイント上回った。 ●日常生活の中で静電気を帯びる現象を選択する問題では、全校平均を3.2ポイント下回った。	・課題に対する考察を行うためのグラフを作成する力や実験の計画を検討して改善する力など、問題文を読み取って答える力を問う問題があるので今後も問題演習を数多く経験させて伸ばしていく。 ・力のつり合いを問う問題の知識は身に付いているが、ばねの縮む長さに加える力の大きさが比例するかどうかと問う問題になると正答率が下がってしまった。今後基本的な問題を継続して演習させ、応用問題にも取り組む機会を増やし指導をする。
「粒子」を柱とする領域	○水素を燃料として使う仕組みの例を問う問題では全国平均を0.5ポイント上回った。 ○水素を例にした水の電気分解の問題では県の平均を0.4ポイント上回った。 ●平均の正答率は1.0ポイント下回った。 ●分子モデルを参考にした化学反応式で表す問題の正答率が全国平均より1.3ポイント下回っている。	・身近な事象から問題を解く力が不得意なので、ワークの問題で基本的な知識を身につけさせ、実際に世の中でどう利用されているかを授業で触れたり、タブレット端末を利用して映像をみたりすることで、より身近に化学分野に興味関心をもたせる。 ・化学反応式は分子モデルを実際に書いて問題に取り組むことが大切なので、授業の中で丁寧に解説し、実際に生徒自身が自分の力で解く力を身につけさせる。
「生命」を柱とする領域	○節足動物の生活場所や、体の仕組みについて答える問題では、全国平均を3.6ポイント上回った。 ○予想や仮説と実験結果が違ふ場合に考えられる理由を記述形式で答える問題では全国平均を1.1ポイント上回っている。 ●平均正答率は全国平均を0.5ポイント下回っている。 ●課題に正対した考察を答える問題では4.2ポイント下回っている。	・考察を考える力をさらに身につけさせるために、実験や課題に取り組む際、自分なりの予想や仮説をしっかりと立てることが大切である。また実験によって実験結果を先に伝えて実験を行い、うまくいかない場合には「なぜうまくいかないのか」を考えさせることで、仮説や考察をさらに深めることができる。 ・問題文が長いものを解く練習を、多く取り入れることで応用問題にも対応することができるので、AIドリルなどを活用して力をつけさせる。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は全国並みである。 ○気圧に関する知識を身につけているかを問う問題では全国平均を4.2ポイント上回っている。 ○岩石に関する知識技能をみる問題では全国平均を1.1ポイント上回っている。 ●大地の変動について他者の考察から検討していく問題では全国平均を9.2ポイント下回った。	・自分で考察を考える力に加えて、他者の考察から検討する力も必要になってくるので問題文を読みとる力をさらに向上させるために、過去の入試問題や応用問題を数多く解くことで問題の形式や考え方を養う。 ・タブレット端末を活用し、教科書に載っているQRコードやAIドリルなどに積極的に取り組む。